

夏のもう1冊



2024

夏におすすめのブックリストをつくりました。
思い出の1冊に出会う旅に出発しませんか！

このブックリストは出版者の許可を得て表紙を掲載しています。

2024年7月

発行：宮崎県立図書館 児童図書室（こどもしつ）

電話：(0985) 29-2596



『夏に、ネコをさがして』

西田俊也／作 徳間書店 2023

亡くなった祖母が住んでいた家に引っ越してきた佳斗。祖母がかわいがっていた外ネコのテンの世話を始めます。ところがある日、テンが急に家に来なくなり、心配した佳斗は町中を探します。その中で、祖母の思い出や、かけがえのない友だちに出会うのでした。



『真昼のユウレイたち』

岩瀬成子／作 芦野公平／絵 偕成社 2023

これは、小学生の子どもたちが主人公の、短い四話の物語です。一人ひとりがそれぞれに、ある悩みを抱えています。そうして子どもたちは日々を暮らす中で、ふと幽霊に出会います。とまどいながらも成長する子どもたちの、切なくも心があたたまってお話です。



『願いがかなうふしぎな日記 夢に羽ばたく夏休み』

本田有明／著 PHP 研究所 2023

井上光平は去年の夏、亡くなったおばあちゃんからもらった絵日記に、自分の目標を書いて願いをかなえました。小学6年生になった今年も、読書をする、苦手な鉄棒の練習、カブトムシの飼育などを目標に書きます。一人の少年の挑戦と努力の物語です。



『夜光貝のひかり』

遠藤由実子／作 文研出版 2023

夢をあきらめた彼方は、夏休みに訪れた奄美大島で、記憶をなくしたという幽霊少女のルリに出会いました。二人はルリの記憶をさがしはじめます。最後に見つけたものは戦争で別れた姉妹の記憶でした。あきらめない夢と約束を描いた真夏のお話です。



『わたしの心のきらめき』

シャロン・M・ドレイパー／作 横山和江／訳 鈴木出版 2023

もうすぐ12歳になるメロディは、脳性まひで体がほとんど動かせず、話すこともできません。自分と同じような子どもたちが集まるサマーキャンプがあると聞き、思い切って参加することにしました。大自然の中で彼女を待っていたのは、忘れられない感動の体験でした。

『夏の小川にかがやく宝石、オニヤンマ』

日本でいちばん大きなトンボの暮らし』

筒井学／写真と文 小学館 2023

梅雨が明けた青空を、大きなトンボがゆうゆうと飛んでいます。眼はエメラルドの宝石のように輝いています。日本で一番大きいトンボ、オニヤンマです。自然豊かな山里なら出会えるオニヤンマ。卵から成虫になるまでの、その暮らしを紹介する写真絵本です。



『ぼくのじしんえにつき』

八起正道／作 いたうひろし／絵 岩崎書店 2023

夏休みに大じしんがおこり、町がメチャコンになりました。予想もしていなかったことがおこって、ぼくはそのときのことをえにつきに書きました。この本にはとてもつらい場面が描かれていますが、大切なことは何かをはっきりと伝えてくれます。



『ねこぜ山どうぶつ園』

角野栄子／作 よしむらめぐ／絵 金の星社 2023

ねこぜ山どうぶつ園園長のリリーさんは、動物の相談にのってあげるので大忙しです。そんなある日、リリーさんがバクのウツラさんに夢の相談をします。出てきたのは影のむくむくさん。「みなさんの大事な思い出になります」と言い、動物園の仲間入りをします。



『アンデルセンの夢の旅』

ハインツ・ヤーニツシュ／文 マーヤ・カステリック／絵 天沼春樹／訳

西村書店東京出版編集部 2020

「何かお話を聞かせて」と馬車に乗り合わせた少女に頼まれ、男の人はとっておきのお話をはじめました。その人は「私の人生はひとつのすばらしいメルヘンでした」と語るアンデルセンだったのです。



『つぼみ実物大ずかん』

高岡昌江／編 あすなろ書房 2024

このずかんは、家やこうえんのまわりなど、みちかにあるつぼみや花を、写真でしょうかいています。あさがおやひまわりなどの、じめんからってぺんまでの高さや花の見ごろの時期、花やつぼみ、実の本当の大きさなどを、写真でくわしく見ることができます。



『角が曲がったみつき二号』

麦野圭／作 高山ケンタ／絵 文研出版 2023

充希は、お父さんと一緒にカブトムシを飼育していて、幼虫が脱皮をして大きくなり、さなぎになり、そして成虫になる様子を見守ります。ところがその中の一匹のカブトムシの角が曲がっていました。それに「みつき二号」と名前をつけ、大事に育てました。



『ちょっとこわいメモ』

北野勇作／著 森本晃司／画 福音館書店 2023

こわがりな少年がみた、ちょっとこわいもののメモ。ぬいぐるみのクマがガラスの目でこっちを見ていたり、プール掃除のときに緑色の円盤を拾ったり。こわくて不思議でおもしろい4つのストーリーです。大丈夫ですよ。ちょっとこわいだけですから。



『メダカ姫』

堀直子／作 NOEYEBROW／絵 PHP 研究所 2023

小学4年生の原田創太は、2匹のメダカの目を見て飼うことを決め、自分で育て始めます。図書館で飼いかたを調べ、育てていく中で、その大変さを感じていました。そんなある日、メダカが生きていくために、ほかの生き物を殺す必要があることを知ります。



『昆虫レストランななほしへようこそ』

藍沢羽衣／作 ゆうこ／絵 文研出版 2023

深山アゲハは、昆虫が大好きな小学4年生の女の子です。あるとき、昆虫を料理して、おいしく食べる『昆虫レストランななほし』で、新メニューの試食を頼まれました。試食や店のおじさんの話を聞こうと、ユーチューバーになって昆虫食を広めようと思ひ始めます。



『生き物たちが先生だ』

しくみをまねて未来をひらくバイオミメティクス』

針山孝彦／著 安斉俊／画 くもん出版 2023

フナムシの足はエネルギーを使わずに水を吸い上げることができ、ヤモリの指先は細い毛のような構造だけで天井にはりつくことができます。この本では、生き物たちのあっと驚く「省エネ」構造を、さまざまな分野に応用した研究が紹介されています。

